

令和元年度第1回逗子市文化振興基本計画策定・推進会議 議事録

- 日時 令和元年5月24日（金）午後2時～午後4時30分
- 場所 市役所第2会議室
- 出席者 （敬称略、順不同）
（会長）渡邊忠貴、（副会長）森谷紀子、山口歆三、長坂祐司、森川いつみ、小谷洋一、石井昭子、及川佳寿美、黒川恭祐、利根川博
- 欠席者 七海耕一、藤城由季
- 事務局 文化スポーツ課：阿万野課長、土屋係長、鬼原主事、浅川主事
- 会議の公開・非公開 公開
- 傍聴人の有無 0人
- 記録 浅川主事 令和元年5月30日作成
- 議題
 - （1）平成30年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）に関する意見聴取
 - （2）その他
- 事前配付資料
 - ・資料1 平成30年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）について
 - ・資料2 評価ランクの基準
 - ・参考資料1 平成29年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）に関する意見聴取について
- 当日配付資料
 - ・会議次第
 - ・名簿
 - ・資料3 逗子市文化振興基本計画 p30、p45～p50
 - ・参考資料2 逗子アートフェスティバル2018 事業報告書
 - ・参考資料3 平成30年度アウトリーチ実施状況
 - ・参考資料4 逗子文化プラザホール 保守管理業務 長期修繕計画
 - ・参考資料5 平成29年度逗子市文化振興基本計画進捗管理票
 - ・参考資料6 平成31年度第1回まちづくりネットワーク会議 参加報告
- 議事
 - 1 開会
 - 【配付資料の確認】
 - 【出欠の確認】
 - ・七海耕一氏、藤城由季氏 欠席。

【新メンバー紹介】

<事務局>

メンバーの変更があったので報告する。逗子市文化協会は田中肇氏に代わり、石井昭子氏となる。

本日の議題について、1点目は「平成30年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）」について、所管課の自己評価に対して、皆さまの意見をいただく。

また、その他として、4月に開催された「まちづくりネットワーク会議」について、参加した山口メンバーから状況の報告をお願いします。ここからの進行、議長は会長をお願いします。

2 議 題

(1) 平成30年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）に関する意見聴取

<会長>

議題1の「平成30年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）に関する意見聴取」について、資料1にある逗子市文化振興基本計画の事業進行管理表の<2018年度進捗状況>以下が、所管課の自己評価である。内容について詳細を確認されたい部分もあると思うので、事務局からの説明をお願いします、それを踏まえ評価していきたい。評価する事業は、逗子アートフェスティバル（以下「ZAF」という。）、アウトリーチ活動、逗子文化プラザホール（以下「ホール」という。）の維持管理の3つである。そして最後に、個別計画進行管理総括表の評価もお願いします。

<事務局>

資料1及び参考資料2、6をご覧ください。

（資料1 事業進行管理表（文化振興推進事業（逗子アートフェスティバルの充実））について説明。）

<会長>

ZAFについて、意見・質問等はあるか。

<森谷>

会場・場所の提供とあるが、市に関連する公共の施設を無償で提供したということか。詳細を確認したい。

<事務局>

平成30年度は、市として財政的な支援を行うことができなかったため、市の役割としては場所の提供や人員の提供となった。具体的には逗子会館の3階を提供した。そのほかには、駅前や商店街で行われた展示に関する調整などである。池子の森の音楽祭の際の場所の提供も行った。

<会長>

亀岡八幡宮はどこの管轄になるのだろうか。

<事務局>

氏子会と調整してお借りした。逗子会館は空いている3階を使って、アートフォリオ展を行った。

<石井>

去年は逗子市文化祭がZAFの傘下に入らなかった。文化協会では、市からの予算がつかない中で、加盟団体が自分たちの力で頑張ってきたが、新しい形でスタートしたZAFの経過が分からないので、ご説明を伺いたい。30年度は財政対策による企画のリセットにより、他団体がZAFに入らなかったということによいか。

<事務局>

平成30年度は市の財政支援が無くなり、ZAFの実施自体白紙になったが、ZAFを継続したいという声は多く、継続を希望する市民が中心となり「逗子アートネットワーク」（以下「ZAN」という。）という組織が立ち上がった。ZANは、ZAF2018の企画と運営を担うこととし、資金調達はもちろん、全企画を全員参加で行うという条件のもと立ち上げたため、団体という参加方法ではなかった。組織としては1年単位であり、現在はZAF2019に向けて新たなメンバーを募集し、準備を進めているところである。

<石井>

名前こそ同じZAFだが、今までとは形が変わってきているということは理解した。

<事務局>

従来は、基本計画に位置付けられているところから、行政として文化スポーツ課がZAFの事務局となり、企画運営は関係団体の皆様によるZAF実行委員会により行っていた。現在はZANが事務局機能も含め、企画運営を行っている。

<会長>

3年前実行委員長を行っていたが、2017年以前のZAFは行政に頼っていた部分も多かった。ところが、去年は市民が中心となりZANとして企画運営を行うことになったため、行政は広報や場所や人の提供を行い、事務局機能の一部だけを担うような形になった。ZAF2018についてどんな印象を持たれたか。

<森川>

実行委員の方に、ゲストとして番組に来てもらったり、自身も企画を見に行ったりして関わった。財政難の中でも、「自分たちの力でどうにかしよう」という勢いがあった。市民参加型の企画も多かった印象がある。来訪された方の満足度が気になるところ。アンケート等はとっているか。ないのであれば今後は行っても良いと思う。

<事務局>

アンケートはとらなかったが、ご意見として伺う。ZAF2018は様々な世代に参加していただけのような企画を行った。市民を巻き込み、アーティストと市民が「一緒に作る」ことが印象的なZAFだった。

<会長>

ZAF はどういう方向に向かうのだろうか。老若男女、たくさんの世代にまたがったイベントを目指すのであれば、世代間ギャップはどうやって埋めていくのだろうか。また、ZAN に参加しない団体とのかかわり方も課題として残る。このまま衰退していく可能性もあるかもしれない。

<事務局>

世代間のギャップや参加率等については、ZAN の中でも課題として挙げられている。主な構成メンバーは子育て世代の 30～40 代のため、SNS での交流が多いということもあり、他の世代、特に高齢者への周知等が十分でない。今後は紙媒体での周知等も必要かもしれない。ZAF2019 についても、企画・運営を全て ZAN が行っているため、開催するかどうかも未定。会場の関係で、池子の森の音楽祭のみ行うことが決まっている。

<森谷>

そもそも ZAN の位置付けが不明である。ZAF は基本計画に位置付けられており、評価の対象となることは理解していたが、ZAN が中心となった今評価対象となるのか。ZAN は一つの個人団体のようなものだと思うが、市民が中心となった文化芸術活動や団体は他にもあるため、ZAN のみ評価の対象とすべきなのかが疑問である。

<事務局>

ZAF 実行委員会は存続しており、ZAF の企画運営部門を ZAN に委託しているという形であるため、個人団体とは性質が異なる。

<会長>

評価について、事務局の提案どおり「(a) 順調である」でよろしいか。

【異議なし】

<事務局>

資料 1 及び参考資料 3 をご覧いただきたい。

(資料 1 事業進行管理表 (アウトリーチ活動推進事業) について説明。)

<会長>

「(a) 順調である」という評価であるが、アウトリーチ活動 (以下「アウトリーチ」という。) について問・意見等はあるか。

<石井>

アウトリーチは希望する学校にのみ行っているのか。

<事務局>

5 つの市立小学校と 3 つの市立中学校全てで行っている。

<会長>

他市はどうなっているか把握しているか。

<事務局>

把握していない。

<森谷>

横須賀市は音楽教育に力を入れており、演奏会を聴きに行ったりしていると聞いたことがあるが、逗子はそういったことはアウトリーチではなく教育委員会等他の機関で行っているという理解で良いか。

<事務局>

その通りである。本シート上でのアウトリーチは、あくまでもホールの事業として行われているものを指している。

<長坂>

アウトリーチの目的の根幹には、シティプロモーション・町おこしというものがあると思う。町村の統廃合等が進んでいる社会の中で、逗子として存続していくためには、鎌倉や葉山等近隣市町との連携が必要だと考えている。シティプロモーションの問題は深刻だと思うが、子どもだけでなく、子どもを育てる親世代への支援がされるまちづくりをしていきたい。

<小谷>

アウトリーチを近隣との連携という形で広げ過ぎても、カバーできないのではないか。

<事務局>

近隣との連携ということでは、昨年度末に県立近代美術館から、アウトリーチ事業でホールと連携できないかと打診があった。

<黒川>

関連として、今年度社会教育課は近代美術館からの提案で、交流センターにおいて共同で講座を開催する予定である。そもそもは県の施策である。

<事務局>

ここで言うアウトリーチ事業は、指定管理者である文化プラザパートナーズが選定したものである。

<山口>

評価に限って言えば、4年間で8メニュー達成することが重要であり、それを達成したことで評価 a を付けることについて異論はない。しかし、この評価の仕方では、ここで話が出たアウトリーチ活動の趣旨とつながらないし、広がりもないような気がしている。

そもそもの目的の一つは、文化プラザホールの利用者が増え、活動が活発化することだが、この評価方法ではその趣旨が分かりにくい。今後はもう少し分かりやすい題名に切り替えるなど、現在の評価方法については終わりに近づけていっても良いのではないかと思った。

反省点の「アウトリーチ保護者の参加見学が実現しなかった」について、今年度検討していることがあれば教えてほしい。学校側に打診はしたが断られてしまったということなのか。

<事務局>

評価については、ご意見として伺っておく。

反省点として記載したアウトリーチへの保護者の参加については、指定管理者が学校に直接依頼をしたが、結果了承を得られなかった。保護者が参加できる方向に進められるように、学校教育課に対して協力を求めていく。

<森谷>

子育てをする保護者を取り巻く環境も変わっている。保護者も忙しいため、LINE でのやり取りを主としていたり、アプローチの方法が難しい。時間帯も検討が必要。

<事務局>

様々な課題がクリアになれば保護者の参加も実現できると思われる。

<山口>

アウトリーチについては保護者がキーとなる。うまくはまれば参加者も増えるだろう。

<事務局>

引き続き教育委員会等との連携を図り、保護者の参加に向けても動いていく。

<石井>

子どもは保護者に見てもらえて嬉しいという気持ちもあると思うので、難しい部分もあるが、保護者も参加できればと思う。

アウトリーチから演劇が外れてしまったことについては、お力になれず申し訳ない。演劇は予算や人手が必要というところもあるので、今は厳しいが、いつかできるようになれば嬉しく思う。舞台芸術で一体感みたいなものを感じてほしい。

<及川>

機会の提供はもちろん、興味を持った子どもたちへのアフターケアも必要だと思う。

<長坂>

中高年に対する事業や予算は手厚い印象を受けるが、今後のことを考えると、若い世代への投資が必要だろう。

<会長>

資料内の事業費（2018 年度実績）987,837 円とは何の金額か。

<事務局>

各事業への講師への出演費・謝礼である。

<石井>

文化協会はスマイルで伝統芸能の普及を行っている。自分たちの活動だけでなく、様々な活動を通して裾野を広げていきたいと考えている。

<会長>

そういった活動について、どこかでまとめて告知・PRしないと伝わりにくいのでは。

<事務局>

アウトリーチ事業は、ホールの自主文化事業として行っている。文化協会の事業については、逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会で、個別計画の柱に基づいた事業の中でご協力いただいていることを報告している。

<石井>

了解した。

アウトリーチにはアフターフォローが大切だと思う。スマイルの事業がきっかけとなり、文化祭にきてくれる子どもたちもいる。

<会長>

アウトリーチの参加者が、自分たちのアートを発信していき、アートの担い手として活躍してもらうのが理想だと思う。

<森谷>

逗子市出身のアーティストを呼ぶアウトリーチがあっても良いのではないか。ホールの選定の際に選択肢に入れられれば。

<会長>

評価について、事務局の提案どおり「(a) 順調である」でよろしいか。

【異議なし】

<事務局>

資料1及び参考資料4をご覧ください。

(資料1 事業進行管理表(文化プラザホールの維持管理事業)について説明。)

<会長>

ホールの維持管理については、危険性を感じつつも、実施できていない現状が続いている。現状を打破する良い意見等はないか。

<山口>

参考資料について、長期にわたり△である工事があって良いのだろうか。

<事務局>

予算の関係上全てに対応できない部分があるが、不具合が発生した場合は緊急性が高いものから修繕等を行うようにはしている。

<山口>

不具合があっても△なのはどうなっているのか。例えば「高温再生器不具合修理」などは、早く対応した方が良いのではないか。

<事務局>

資料の表記について、今年度記号が無くなっているものについては解決したものということになる。表記が分かりにくいため改める。

<森谷>

演者にとっては舞台装置等の改修修繕への関心が高いのが正直なところである。非常用発電機のオーバーホールができていないのは心配だ。

<事務局>

ホール全体の運営・通常運営に関わるものの優先順位が高いため、舞台装置等の修繕は後

回しになってしまうのが実情だ。利用者にとっては、舞台装置等の改修修繕の優先度が高いことは理解している。

<山口>

参考資料に金額が明記されると良い。それぞれの改修修繕にどれだけの予算が必要なのか分かれば、評価の参考になるだろう。

<会長>

リスク管理については早急に検討し、対処できるようにしておかなければならない。

指定管理者と行政の関係の中で、緊張感を保つことが大切。数年に一回でも監査を行い、緊張感を保っておくと良い。

では評価に入る。事務局の提案からは変更し、cでよろしいか。

【異議なし】

<事務局>

(資料1 個別計画進行管理総括表について説明。)

<会長>

審議会・懇話会等の意見については、事務局でまとめ、後ほどフィードバックしてもらえば良い。

<事務局>

本日いただいたご意見は、事務局でまとめた後、委員の皆さまに内容のご確認をお願いする。皆さまのご確認の後、内容を確定する。

<山口>

個別計画進行管理総括表1について、言葉として、満足度については、入場者数や席数・埋まった席数に対する回収率と、それに対する満足度という表記をしないと、数値が正確と言えない。アンケート期間もランダムにするなど、数値を実態に沿ったものにするのを検討してほしい。

<石井>

個別計画進行管理総括表1②の目標4について伺うが、ホールの入場者数は、市の直営時代と指定管理になってからで実績が変わっているのだろうか。直営時代の入場者数のデータと比較し、もし直営時代の方が数字が良かったら、指定管理者に指摘すべき事項にもなり得る。

<事務局>

個別計画進行管理総括表1の「ホールの年間入場者数10万人以上」という目標は、逗子市総合計画の実施計画の中で、2013年のデータを基に、目標設定当時の状況から決定したものである。

<会長>

そうすると、現在目標に挙げられている4項目の目標設定自体が妥当と言えるのか疑問

である。

<石井>

個別計画進行管理総括表2の、施策体系別評価による総括コメントに「負担金の休止にもかかわらず」という言い回しがあるが、これは少々危険な気がする。負担金が休止された中、一定の成果を収めたことは評価できるが、そもそも逗子市文化振興条例に銘打った、市が市民と共に文化を支えるという条例に反故にし兼ねないと危惧している。

<会長>

これらは検討事項とし、一度評価に移りたい。事務局の提案どおりでよろしいか。

【①・②ともに異議なし】

(2) その他

<会長>

続いて、議題2「その他」について、4月に開催された「まちづくりネットワーク会議」の報告を、山口メンバーにお願いしたい。

<山口>

私(山口メンバー)は4回目の参加となる。桐ヶ谷新市長になって初めての会議であった。初参加のメンバーが多く、まちづくりネットワークについてより詳しく説明された。会議進行は今までとほとんど変わっていない。

「オンリーワンのまちを目指して」について説明された(参考資料6 P2)。5つの方針①企業誘致と起業促進で自走できる自治体へと財政構造を転換②子育てしやすいまちづくり③高齢者や障がいのある方が安心して暮らせるまちづくり④大規模な自然災害への備えと危機管理⑤魅力あふれるまちづくりと、3つの重点プロジェクト①逗子の財政再建プロジェクト②安心して暮らせる逗子プロジェクト③魅力あふれる逗子プロジェクトについて、財政再建と企業誘致を中心に話があった。

また、逗子市の高齢者率が31%で県内2位であること、時間帯ごとの災害の発生割合や、災害対策についての話もあった。新市長の「現場主義」を象徴する具体的事例による説明が印象的であった。

続いて、小坪、沼間、池子、久木小学校区住民自治協議会の報告がなされた。小坪、沼間校区は特に活発な活動がなされていた。逗子小学校区は、住民自治会が逗子、桜山、新宿の三地区に分かれている。各地区自治会はそれぞれ活発に活動されているので小学校区としての連携ができないのかどうか工夫が必要と思われる。

今回、まちづくりネットワーク会議の目的の説明を受け、逗子市文化振興基本計画策定・推進会議の委員の代表として参加していることを改めて認識した。これからは代表としての自覚をもって参加したい。まちづくりネットワークは、それぞれの懇話会や会議の情報を共有する場であり、今後のまちづくりネットワークでは、当推進会議として発信すべき情報を提供する様に心がけたい。その意味から、当推進会議をネットワーク会議前に開催する等

の工夫が必要と思う。

時間も限られているため、会議の詳細については、今後アップされる議事録や資料等をご確認いただきたい。

<会長>

質問・意見等のある方はいるか。

【質問・意見等なし】

3 閉 会

<事務局>

以上で「令和元年度第1回逗子市文化振興基本計画策定・推進会議」を終了する。

◇◇◇終了◇◇◇